

エホバに仕える人たちちは正しいことを愛する

「正しいことを切望している人たちちは幸福です」。[マタイ 5:6](#)

[9番の歌 エホバは王！](#)

何を学ぶか*この邪悪な世の中で、正しいことを行おうとする人を見つけるのは簡単ではありません。それでも現在、何百万人の人たちが正しい生き方をしようと努力しています。あなたもその1人であるに違いありません。あなたがそうした生き方をしているのは、エホバを愛していて、エホバが正しいことを愛しているからです。では、正しいことへの愛をどうすれば強めることができるでしょうか。この記事では、正しさとは何か、また正しいことを愛することはどのように私たちのためになるかを考えます。そして、正しいことへの愛を強めるために、具体的にどんなことができるかも取り上げます。

1. ヨセフはどんな問題にぶつかりましたか。どうしましたか。

ヤコブの息子ヨセフは、難しい問題にぶつかりました。ある女性から、「私と寝て」と言われたのです。その人は、**主人であるポテパルの妻**でした。ヨセフはこの誘惑を退けました。中には、「どうしてそんなことをしたんだろう」と考える人もいるかもしれません。ポテパルは家にいませんでした。また、ヨセフはその家の奴隸だったので、**主人の妻の誘惑を退けるなら、どんな仕返し**をされるか分かりませんでした。それでも、ヨセフはしつこい誘惑を退け続けました。なぜでしょうか。ヨセフはこう言っています。「**そのような非常に悪いことをして、神に対して罪を犯すことなど、どうしてできるでしょうか**」。[\(創 39:7-12\)](#)こうしたことの後、主人の妻がヨセフに目を留め、「私と寝て」と言うようになった。8 しかしヨセフは拒み、主人の妻に言った。「ご主人さまは、家の中のことを私に任せ、全く心配しておられません。全てのものを私に委ねてくださっています。9 この家に私の上に立つ人はいません。ご主人さまが私に下さらないものはありません。でもあなたは別です。奥さまだからです。そのような非常に悪いことをして、神に対して罪を犯すことなど、どうしてできるでしょうか」。10 彼女は毎日言い寄ったが、ヨセフは彼女のそばで横になることも一緒に居続けることも決してなかった。11 ある日のこと、ヨセフは仕事のため家に入った。その時、家の中には召し使いが誰もいなかった。12 すると彼女はヨセフの服をつかんで、「私と寝て！」と言った。ヨセフは、**服を残したまま外に逃げた**）

2. ヨセフは姦淫が神に対する罪であることをどのようにして理解しましたか。

2 ヨセフは、姦淫がエホバから見て「非常に悪いこと」であるということをどのようにして理解したのでしょうか。**モーセの律法**の「**姦淫をしてはならない**」という規定が記されたのは、**200年**も後のことでした。[\(←出 20:14\)](#)でもヨセフは、エホバのことをよく知っていたので、エホバが性的不道徳を憎んでいるということが分かっていました。例えば、**エホバが取り決めた結婚は1人の男性と1人の女性の結び付きである**、ということを理解していました。またヨセフは、**祖父の母親であるサラが犯されそうになった時**、**2度にわたってエホバが保護した**ということを聞

いていたでしょう。エホバは同じようにして、イサクの妻リベカのことも保護しました。 (創2:24 それで、男は父と母から離れて妻にしつかり付き(*妻とずっと一緒にいて), 2人は一体となるのである; 12:14-20; 20:2-7; 26:6-11) ヨセフはこうしたことをじっくり考えて、エホバから見て何が正しく何が間違っているかを理解できました。ヨセフはエホバを愛していたので、エホバの基準に従いたいと思っていました。

3. この記事ではどんなことを考えますか。

3 あなたは、正しいことを愛していることでしょう。でも、完全な人は一人もいないので、気を付けていないと、正しさに関する世の中の見方に簡単に影響されてしまうかもしれません。 (イザ 5:20 善を悪と言い、悪を善と言う人たち、闇を光とし、光を闇とする人たち、苦いものを甘いとし、甘いものを苦いとする人たちには災いがある!。ロマ 12:2 そして、今の体制(*時代)によって形作られるのをやめてください。かえって、考え方を新しくすることによって自分を変化させましょう。それは、神の善い意志、喜ばしい完全な意志を見極めるためです) では、①正しさとは何か、②正しいことを愛することはどのように私たちのためになるかを考えていきましょう。そして、③エホバの基準への愛を強めるためにどんなことができるか、3つの点を取り上げます。

正しさとは何か

4. 正しさとはどういうことではありませんか。

4 世の中には、自分こそ正しいと考える独善的な人たちが多くいます。とはいっても、こうした態度は神に喜ばれません。イエスは地上にいた時、当時の宗教指導者たちを非難しました。彼らが正しさに関する基準を自分たちで決めていたからです。 (伝 7:16 正しさにあまりにこだわってはならない。賢くなり過ぎてはならない。どうして自分の身を滅ぼすのか。ルカ 16:15) イエスは言った。「あなた方は人前で自分を正しく見せますが、神はあなた方の心を知っています。人の間で重んじられるものは、神から見て極めて不快なものなのです。) 本当の正しさは、自分の基準で決められるものではありません。

5. 聖書で言う正しさとは何ですか。

5 正しいことを行うのは、本当に立派なことです。聖書で言う正しさとは、エホバから見て正しいことを行うことです。「正しさ」に相当する語は、エホバの最高の基準に従って生きるという考え方を伝えています。例えば、エホバは古代イスラエルの商人に対して、「ごまかしのない……重り」を使うようにと命じました。 (申 25:15 ごまかしのない正確な重り、ごまかしのない正確な計量容器をもつてはいけません。あなたの神エホバが与えてくださる土地で長く生きるためです) ここで「ごまかしのない」と訳されているヘブライ語は、「正しい」と訳すこともできます。ですから、エホバから見て正しいことを行いたいと願うクリスチャンは、①仕事に関する全てのことで、ごまかすことなく正直に行動する必要があります。また、正しいことを行う人は、②公正を愛し、不公正を憎みます。それで、「全ての点で神に喜ばれ」るために、自分の決定をエホバがどうご覧になるかをよく考えます。 (コロ 1:10 エホバ(*)に仕える人にふさわしい歩み方をし、全ての点で神に喜ばれますように。また、あらゆる善いことを行って実を結び、神についての正確な知識をますます得られますように)

6. エホバの基準が正しいと言えるのはなぜですか。 (イザヤ 55:8, 9)

6 聖書は、エホバを「正しさの源」と呼んでいます。 (エレ 50:7) 彼らを見つける者たちは皆、彼らをむきぱり食い、敵たちは言った。『われわれに罪はない。彼らがエホバに対して罪を犯したのだ。正しさの源(d*住まい)であり、父祖たちが希望を抱いて待ったエホバに対して、罪を犯したのだ』) エホバは全てのものを造った方なので、エホバだけが正邪の基準を正しく定めることができます。エホバの基準は、人間の基準よりもはるかに高いものです。エホバは完全な方ですが、人間は不完全さや罪の影響を受けています。 (格 14:12) 人には正しい道に思えても、最終的に死に至る道がある。イザヤ 55:8, 9 エホバはこう宣言する。『私の考えはあなたたちの考えとは違う、あなたたちの行い(*道)は私の行いとは違う。9天が地より高いように、私の行い(*道)はあなたたちの行いより高く、私の考えはあなたたちの考えより高いを読む。) それでも、私たちは神に似た者として造られているので、正しさに関するエホバの基準に従って生きることができます。 (創 1:27) 神は人を自分に似た者、神に似た者として創造した) そして、ぜひそうしたいと思っています。お父さんエホバを愛しているので、できる限りのことをしてエホバに働きたいと思っています。 (エフェ 5:1) 皆さんは子供として神に愛されている…神に働きなさい)

7. 信頼できる基準が必要なのはなぜですか。

7 正邪に関するエホバの基準に従うことは、私たちのためになります。例で考えてみましょう。銀行ごとにお金の価値が違ったり、建設会社によって長さや重さの単位が違ったりするなら、大混乱になってしまいます。また、医師などが一定の基準に従わずに治療を行うなら、患者の命に関わります。こうした例から分かる通り、信頼できる基準は私たちの保護となります。同じように、正邪に関する神の基準も、私たちの保護となるのです。

8. 正しいことを愛する人には、どんな祝福が与えられますか。

8 エホバは、ご自分の基準に従って生きようとする人たちに祝福を与えます。こう約束しています。『正しい人は地上に住み続け、そこで永遠に暮らす』。 (詩 37:29) 正しい人は地上に住み続け(*地球が与えられ)、そこで永遠に暮らす) 全ての人がエホバの基準に従う時、平和と一致の下に幸せに暮らせる世界が実現します。エホバは、私たちにそうした生活を送ってほしいと願っています。ですから、一人一人が正しいことを愛するのではなく、本当にふさわしいことではないでしょうか。では、正しいことへの愛をどうすれば強めることができますか。3つの点を考えてみましょう。

エホバの基準への愛を強める

9. 正しいことを愛する上で、どんなことが助けとなりますか。

9 (1) 基準を定める方エホバを愛する。正しいことを愛するためには、正邪の基準を定める方エホバへの愛を深める必要があります。エホバへの愛が深まれば深まるほど、エホバの正しい基準に従って生きたいという気持ちが強くなります。アダムとエバのことを考えてみましょう。もしエホバを愛していたなら、2人はエホバのおきてを破るようなことはしなかつたはずです。 (創 3:1-6) 蛇は女に言った。「あなたたちは決して死にません。5その木の実を食べた日に、目が開かれ、あなたたちが神のようになって善悪を知るようになることを神は知っているのです」。6そこで女がその木を見ると、おいしそう

な実が付いていて、魅力的な美しい木に見えた。それで女はその木の実を取って食べ始めた。その後、一緒にいた時に夫にも渡した。夫もそれを食べ始めた、16-19 女にはこう言った。「私はあなたの妊娠中の苦痛を大きくする。あなたは苦しみながら子供を産む。あなたは夫との親密さを求め、夫はあなたを支配することになる」。17アダム(意味:地の人/人間/人類)にはこう言った。「あなたが妻の言ったことに従い、『食べてはならない』と私が命じた木の実を食べたので、あなたのせいで地面は災いを被った。それであなたは、地面から食物を得るために生涯ずっと苦労する。18地面にはいばらとアザミが生え、あなたは野の草木を食べなければならない。19あなたは額に汗して食物(*パン)を得、やがて地面に戻る。そこから取られたからだ。あなたは土なので土に戻るのである」)

10. アブラハムはエホバへの理解を深めるためにどんなことをしましたか。

10 私たちは誰も、アダムとエバと同じ間違いをしたいとは思いません。そうならないためには、エホバについて学び、エホバの考え方や素晴らしい性質についての理解を深めていく必要があります。そうすれば、エホバをいつそう愛するようになります。アブラハムの例を考えてみましょう。アブラハムは、エホバを心から愛していました。エホバの決定を理解できないこともありました。エホバに背を向けるのではなく、エホバのことをもっと知るように努力しました。例えば、ソドムとゴモラを滅ぼすというエホバの決定について知った時、アブラハムは、「地上の人全てを裁く方」が正しい人と邪悪な人と一緒に滅ぼしてしまうのではないか、と心配になりました。でも、そんなことはエホバに限ってあり得ないと思いました。それで、エホバに対して丁寧に繰り返し質問しました。エホバはその質問に辛抱強く答えました。その結果、アブラハムは、エホバが一人一人の心をご覧になる方で、正しい人と邪悪な人と一緒に罰することは決してない、ということを理解できました。(創 18:20-32) 25邪悪な人と一緒に正しい人も滅ぼして、正しい人と邪悪な人を同じ目に遭わせるようなことを、あなたがなさるはずはありません。あなたに限ってあり得ないことです。地上の人全てを裁く方は、正しいことを行われるのではありませんか」32アブラハムは言った。「エホバ、どうか、お怒りにならずにもう一度だけ聞いてください。もし10人しかいないとしたらどうでしょうか」。神は答えた。「その10人のために、滅ぼすことはしません」)

11. アブラハムは、エホバを愛し信頼していることをどのように示しましたか。

11 アブラハムは、ソドムとゴモラの町についてエホバと会話して、大いに心を動かされました。お父さんエホバへの愛と敬意が深まつたに違いありません。何年も後、エホバに対するアブラハムの信頼は大いに試されました。愛する息子イサクを犠牲として捧げるよう命じられたのです。でもアブラハムは、エホバのことを前よりもよく知るようになっていました。それで、エホバに何も尋ねることなく、その通りにするために準備を始めました。この時、アブラハムは心が引き裂かれるような思いだったに違いありません。それでも、エホバについて学んだことをじっくり考えたことでしょう。エホバが正しくないことや愛のないことを行うはずはない、ということを理解していました。パウロによれば、アブラハムは、エホバがイサクを生き返らせることができると考えました。(ヘブ 11:17-19) 信仰によってアブラハムは、試された時にイサクを捧げたも同然でした。約束を与えられて喜んだ人が、自分の独り子を捧げようとしたのです。18「あなたの子孫(d*種)と呼ばれる者はイサクから出る」と言っていたにもかかわらずです。19アブラハムは、イサクが死んでも神は生き返らせることができる、と考えました。そして、いわばイサクを死から取り戻し、それは1つの例となりました) エホバはイ

サクの子孫が1つの国民となると約束していましたが、この時イサクにはまだ子供がいませんでした。アブラハムは、お父さんエホバを愛していて、エホバが正しいことを行うと信じていました。それで、難しい命令ではありました、信仰を示し、その通りに行いました。（創22:1-12¹⁰そして短刀を手に取り、息子を殺そうとした。11ところが、エホバの天使が天から、「アブラハム、アブラハム！」と呼び掛けた。アブラハムは、「はい！」と答えた。12天使はこう言った。「少年を傷つけてはいけません。何もしてはなりません。今、あなたが神を畏れていることがよく分かりました。あなたは自分の子、一人息子を私に与えることを拒みませんでした」）

12. どうすればアブラハムに倣えますか。（詩編73:28）

12 どうすればアブラハムに倣えるでしょうか。エホバについて学び続けることです。そうすれば、エホバとの絆を強め、いっそうエホバを愛するようになります。（詩編73:28 私にとって、神に近くの良いことだ。私は、主権者である主エホバのもとに避難した。その方の行い全てを知らせるためにを読む。）そして、良心をエホバの考えにいっそう合ったものとすることができます。（ヘブ5:14 一方、固い食物(*よくかんで食べる物)は、十分に成長した人(*大人)のためのものです。そのような人は、使うことによって識別力(*知覚力)を訓練したので、正しいことも悪いことも見分けることができます） そうなれば、何か間違ったことをするように誘われても、それを退けることができます。また、エホバが悲しむことやエホバとの絆を弱めることを行うことについて考えることすらしません。では、正しいことを愛していることを示すために、ほかにも何ができるでしょうか。

13. 正しいことを行うには何が必要ですか。（格言15:9）

13 (2) 正しいことに対する愛を強めるよう毎日努力する。正しさに関するエホバの基準への愛を強めることは、筋肉を鍛えることと似ています。どちらも、毎日努力する必要があります。エホバは分別のある方で、私たちにできないことを求めたりはしません。（詩103:14 神は私たちの造りをよく知っている。私たちが土でできているにすぎないことを覚えている） そして、「正しく生きようとする人を愛する」と約束しています。（格言15:9 エホバは、悪人の道をひどく嫌い、正しく生きようとする人を愛するを読む。） 私たちは、エホバに仕える面で何か目標を立てたなら、それを達成するためには努力を続けます。同じように、正しいことを行う面でも努力を続ける必要があります。エホバは、私たちが着実に進歩していくよう辛抱強く助けてください。（詩84:5 あなたから力を得る人は幸せです。心をあなたの家への道に向けています。7 その人は歩くにつれて力を得、シオンの神の前に立）

14. 「正義の胸当て」とは何ですか。それが私たちにとって欠かせないのはなぜですか。

14 エホバは、正しいことを行うことは重荷ではない、と愛情深く教えてくれています。（ヨハ二5:3 神を愛するとは、神のおきてを守ることです。神のおきては重荷では） それは重荷ではなく保護となります。私たちが生きていくのに一日たりとも欠かせないものです。パウロが述べた、神からの武具について考えてみましょう。（エフェ6:14-18 ですから、しっかりと立つため、真理のベルトを腰に巻き、正義の胸当てを着け、15 平和の良い知らせを伝える用意として履物を履いて(*足に装備を着けて)ください。16 加えて、信仰の大盾を持ってください。それによって邪悪な者(サタン)の火矢を全て消すことができます。17 また、救いのかぶとをかぶり、聖なる力の剣つまり神の言葉を手に取ってください。18 あらゆる種類の祈りと祈願を捧げ、どん

な時も聖なる力に導かれつつ祈りましょう。祈ることを常に意識し(*祈りのために目を覚ましていて), いつも聖なる人たち全てのために祈願を捧げましょう) **兵士の心臓を守っているのはどの武具でしょうか。** 「胸当て」です。胸当てが心臓を保護するのと同じように, 「正義の胸当て」つまりエホバの正しい基準は, **心つまり私たちの内面を守ってくれます。** ですから, 正義の胸当てを着けることを決して忘れてはいけません。 (格 4:23 ほかの何よりも, あなたの心を守れ。命は心に懸かって(*源を発して)いるからである)

15. どうすれば正義の胸当てを着けることができますか。

15 どうすれば正義の胸当てを着けることができるでしょうか。毎日の決定をエホバの基準に沿つたものにすることによって, そうできます。どんなことを話すか, どんな音楽を聞くか, どんな本を読むか, どんなテレビや動画を見るかについて決める時には, **まず次のように考え**ましょう。 「**どんなものを心に取り入れること**になるだろうか。これはエホバの基準にかなったものだろうか。それとも, 不道徳や暴力や貪欲や利己心といった, **エホバが正しくないと**考えているものに**思いを傾けさせ**るものだろうか」。 (フィリ 4:8 最後に, 兄弟たち, 真実なこと, 真面目なこと, 正しいこと, 清い(*貞潔な)こと, 愛すべきこと, 立派なこと, 高潔なこと, 称賛に値することについて, 考え(*默想し)続けてください) **自分の決定をエホバの考えに沿ったもの**とするなら, **エホバの正しい基準**によつて**心を守る**ことができます。



あなたの正しい行いは「海の波のように多くなる」。 (16-17 節を参照。)

16-17. イザヤ 48 章 18 節からすると, 私たちはいつまでもエホバの基準に従って生きていくことができます。なぜそう言えますか

16 「**自分はこれから, 来る日も来る日も, 来る年も来る年も, エホバの正しい基準に従って生きていく**だろうか」と心配になることがありますか。 イザヤ 48 章 18 節あなたが私のおきてに注意を払いさえすれば! そうすれば, あなたの平和は川の流れのように豊かになり, あなたの**正しい行いは海の波のように多くなる**にあるエホバの例えに注目してみましょう。 (読む。) そこでエホバは, 私たちの正しい行いが, 「**海の波のように多くなる**」と述べています。自分が広々とした浜辺に立っていて, 寄せては返す波を見ているところを想像してみてください。そうした穏やかな環境で, 「**いつか波がやって来なくなるのではないか**」と**心配**になったりするでしょうか。そんなことはないはずで

す。あなたが知っている通り、海の波は何千にもわたって打ち寄せてきましたし、これからも打ち寄せるからです。

17 あなたの正しい行いも、海の波のように多くなります。そのためにどんなことができるでしょうか。①何かの決定を下す時には、まずエホバがどんなことを望んでいるかを考えるようにしましょう。②そして、それを実行してください。そうするのがとても難しく感じることもあるかもしれません、愛情深いお父さんエホバはいつもあなたのそばにいて、力を与え、毎日正しいことを行えるように助けてください。（イザ 40:29-31 神は疲れた人に力を与え、弱った人にみなぎる活力を与える。30 少年が疲れ果てて弱ることも、青年がつまずいて倒れることもある。31 しかし、希望を抱いてエホバを待つ人は、再び力を得る。ワシのように翼を広げて舞い上がる。走っても弱ることがなく、歩いても疲れ果てない）

18. 自分の基準でほかの人を裁いてはいけないのはなぜですか。

18 (3) 裁くことをエホバに委ねる。私たちはエホバの正しい基準に従って生きるよう努力するとはいえ、ほかの人を裁いたり独善的になったりしてはいけません。私たちには、自分の基準でほかの人を裁く権利は与えられていません。エホバが「地上の人全てを裁く方」であることを覚えておく必要があります。（創 18:25 地上の人全てを裁く方は、正しいことを行われるのでは）エホバは、裁くことを私たちに委ねてはいません。この点についてイエスは、「裁くのをやめなさい。裁かれないためです」と言っています。（←マタ 7:1）*会衆の長老たちは時折、重大な罪や悔い改めに関して裁きを行う必要があります。（コリー 5:11; 6:5。ヤコ 5:14, 15）それでも、自分たちが心を読めないことや、エホバのために裁いていることを謙遜に認めています。（歴代第二 19:6（皆さんは人のためではなくエホバのために裁く）と比較。）神の公正の基準は、バランスの取れた憐れみ深いものです。長老たちはその基準に注意深く従います

19. ヨセフは、エホバが裁いてくださることを信じていました。なぜそう言えますか。

19 正しいことを行ったヨセフの例をもう一度考えてみましょう。ヨセフは自分にひどいことをした人のことも裁いたりはしませんでした。ヨセフの兄弟たちはヨセフを捕まえて奴隸として売り飛ばし、父親のヤコブにはヨセフが死んだと思い込ませました。何年か後、ヨセフは家族と再会します。その時までにヨセフは、大きな権力を持つ支配者になっていたので、兄弟たちを厳しく裁いて仕返しすることもできました。ヨセフの兄弟たちは、自分たちがしたことを深く後悔していたとはいえ、ヨセフから仕返しされるのではないかと恐れています。でも、ヨセフはこう言いました。「恐れないでください。私が神だとでもいうのでしょうか」。（創 37:18-20, 27, 28, 31-35; 50:15-21）ヨセフは言った。「恐れないでください。私が神だとでもいうのでしょうか。20 皆さんは私に対して悪いことをたくさんましたが、神はそれを良いことにつなげて、多くの人が生き延びられるようにしようとを考えました。そして今、実際にそうなっています。21 ですから恐れないでください。私はこれからも皆さんと小さな子供たちに食物を供給します」。このようにヨセフは兄弟たちを安心させ、優しく話した）ヨセフは謙遜さを示し、裁くことをエホバに委ねたのです。

20-21. どうすれば独善的な態度を避けられますか。

20 私たちもヨセフに倣って、裁くことをエホバに委ねます。例えば、兄弟姉妹の動機を疑つたりはしません。私たちは人の心を読むことができないからです。「動機を調べる」ことができるのはエホバだけです。（格 16:2 人には自分の道はどれも正しく思えるが、エホバは動機を調べる）エホバは、生い立ちや文化などに関わりなく、どんな人のことも愛しています。そして、私たちに対して、「心を大きく開く」くようにと教えています。（コリ二 6:13 それで、私たちの愛情に応えて、皆さんも心を大きく開いて(*自分を広くして)ください。私はわが子に話すように話しています）それで私たちは、全ての兄弟姉妹のことを裁くのではなく、愛するように努力します。

21 そして、私たちは兄弟姉妹でない人のことも裁いたりはしません。（テモ一 2:3, 4 そのように祈ることは、私たちの救い主である神から見て良いことであり、受け入れられることです。4 神は、あらゆる人が救われて、真理の正確な知識を得ることを望んでいます）あなたは、エホバの証人ではない親族について、「あの人があの人が真理を聞くことは絶対にない」と言ったことがありますか。そのように裁くことは、独善的で出過ぎたことです。エホバは今でも、「あらゆる場所の全ての人に」悔い改める機会を与えています。（使徒 17:30 確かに、神はそうした無知の時代を見過ごしてきましたが、今では、悔い改めるべきことをあらゆる場所の全ての人に告げています）独善的な態度はエホバから見て正しくないということを忘れないようにしましょう。

22. 正しいことを愛していきたいと思うのはなぜですか。

22 正しさに関するエホバの基準を愛するなら、私たちは幸福になることができます。そして、人々は私たちの姿を見て、神にも私たちにもいっそう引き寄せられるようになります。ですから、「正しいことを切望」するのを決してやめないようにしましょう。（マタ 5:6 正しいことを切望している人たちは幸福です。満たされるからです）エホバは私たちの努力に目を留め、私たちの進歩を見て喜んでください。世の中には正しくないことを行う人がますます多くなっていますが、安心してください。「エホバは正しい人を愛する」からです。（詩 146:8 エホバは目が見えない人の目を開いている。エホバはうずくまっている人を立ち上がらせている。エホバは正しい人を愛する）

どのように答えますか

1. 正しさとは何ですか。

・S04-05 聖書で言う本当の正しさは、自分の基準で決められるものではなく、エホバから見て正しいことを行うこと、エホバの最高の基準に従って生きること。エホバだけが正邪の基準を正しく定めることができるので、私たちは、お父さんエホバを愛して、できる限りのことをしてエホバに倣いたいと思う。

2. 正しさに関するエホバの基準に従うことは、どのようにためになりますか。

・S07 お金の価値や長さや重さの単位、医療での一定の基準など信頼できる基準が私たちの保護となるように、正邪に関する神の基準も、私たちの保護となる

・S08 エホバは、ご自分の基準に従って生きようとする人たちに祝福を与え、地上に住み続けそこで永遠に暮らすという約束を実現される

3. 正しさに関するエホバの基準への愛を強めるために、どんなことができますか。

- ・S09 (1) 基準を定める方エホバを愛する。エホバへの愛が深まれば深まるほど、エホバの正しい基準に従って生きたいという気持ちが強くなる。
- ・S13-15 (2) 正しいことに対する愛を強めるよう毎日努力する。筋肉を鍛えるように、毎日努力を続ける必要がある。エホバは、私たちが着実に進歩していくよう辛抱強く助けてくださる。エホバの正しい基準は、心つまり私たちの内面を守ってくれる。そのために、自分の決定をエホバの考えに沿ったものとする。
- ・S18 (3) 裁くことをエホバに委ねる。私たちには、自分の基準でほかの人を裁く権利は与えられておらず、人を裁く独善的な態度はエホバから見て正しくない。

139 番の歌 新しい世界を見つめて

△ この邪悪な世の中で、正しいことを行おうとする人を見つけるのは簡単ではありません。それでも現在、何百万人の人たちが正しい生き方をしようと努力しています。あなたもその1人であるに違いありません。あなたがそうした生き方をしているのは、エホバを愛していて、エホバが正しいことを愛しているからです。では、正しいことへの愛をどうすれば強めることができるでしょうか。この記事では、正しさとは何か、また正しいことを愛することはどのように私たちのためになるかを考えます。そして、正しいことへの愛を強めるために、具体的にどんなことができるかも取り上げます。

△ 会衆の長老たちは時折、重大な罪や悔い改めに関して裁きを行う必要があります。 (コリー 5:11; 6:5。ヤコ 5:14, 15) それでも、自分たちが心を読めないことや、エホバのために裁いていることを謙遜に認めています。 (歴代第二 19:6 と比較。) 神の公正の基準は、バランスの取れた憐れみ深いものです。長老たちはその基準に注意深く従います。

△ (マタ 5:6) 正しいことを切望している人たちは幸福です。満たされるからです。

△ (創 39:7-12) こうしたことの後、主人の妻がヨセフに目を留め、「私と寝て」と言うようになった。8 しかしヨセフは拒み、主人の妻に言った。「ご主人さまは、家の中のことを私に任せ、全く心配しておられません。全てのものを私に委ねてくださっています。9 この家に私の上に立つ人はいません。ご主人さまが私に下さらないものはありません。でもあなたは別です。奥さまだからです。そのような非常に悪いことをして、神に対して罪を犯すことなど、どうしてできるでしょうか」。10 彼女は毎日言い寄ったが、ヨセフは彼女のそばで横になることも一緒に居続けることも決してなかった。11 ある日のこと、ヨセフは仕事のため家に入った。その時、家の中には召し使いが誰もいなかった。12 すると彼女はヨセフの服をつかんで、「私と寝て！」と言った。ヨセフは、服を残したまま外に逃げた。